

校長先生のひとり言

心とことば

高松市立城内中学校長 山下祐一

朝、校門に立っていると「おはようございます。」と、子どもたちの明るいあいさつがある。4月ころと比べると、表情が柔らかく



のびやかである。慣れもあろうが、学校生活の中での子どもたち
同士の交わりが、表情を変えてきたのだと思う。
赴任当初は、懐かしそうに見る瞳、不思議そうに眺める瞳に多く
出会った。本校の生徒の6割強は、前々任校(小学校)の卒業生で、
4年ぶりの再会となったからであろう。皆確かな成長の跡を見せ
ている。言葉をかけてくれると小学生の頃がよみがえってくる。
朝のあいさつに始まって、私たちは多くの言葉を交わす。という
より、言葉の海の中で生活している。当然、言葉には意味があり、
雰囲気があるのだから、どんな言葉の世界にいるかは、知らず知
らずのうちに、私たちの心や考え方に大きな影響をもたらし、時に

は体調にまで影響を及ぼすことがあるかもしれない。
テレビや雑誌などには、より強いインパクトを与えようと様々な
言葉が氾濫している。場合によっては、子どもたちは、人を傷つけ
る言葉、汚い言葉、荒々しい言葉のシャワーを浴びながら成長して
いるのかもしれない。明るい、温かい、美しい言葉のシャワーに切
り替える努力が大切である。そうすることが、子どもたち一人一人
をよりよい成長につなぐ基盤になるように思う。
温かく思いやりのある気持ちを、素直に言葉や態度で表せる、
そんな雰囲気の漂う学校を大切にしたい。